

江南市 地域福祉計画・地域福祉活動計画策定にかかる

地域福祉懇談会の実施要領

目次

1	開催の目的.....	1
2	参加者	1
3	全2回のフレームワーク	1
4	ワークショップのプログラム内容	2
5	地域福祉懇談会の計画への反映イメージ	3
6	本日のスケジュール	4
7	ワークショップの方法（K J法）	6
8	ワークショップのルール	7
	参考資料 開催予定表	7

平成 29 年 1 月 22 日

1 開催の目的

江南市・江南市社会福祉協議会では、現在「地域福祉計画・地域福祉活動計画」の策定を進めています。江南市の地域福祉を一層充実させていくためには、より身近な地域で支え合い・助け合うことができる「小地域福祉活動」の仕組みづくりが必要となっています。

今回の「地域福祉懇談会」は、中学校区ごとの課題や困りごとやその解決策を皆さんに話し合っていただくことで、今後の小地域福祉活動の基盤づくりを進めるためのきっかけとしていくために実施するものです。

また、懇談会の結果については、「地域福祉計画・地域福祉活動計画」にも反映するものとします。

小地域福祉活動とは…

小地域を基礎に行われる住民活動と理解され、

- (1) 住民間のつながりを再構築する活動
- (2) 要援助者に対する日常生活かつ身近な支援を行う活動
- (3) 地域社会の福祉的機能を高める活動

などがあり、基本的な活動として「地区社協」の設置や「ふれあい・いきいきサロン」活動の取り組みがあります。

(出典) 社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会ホームページ

2 参加者

参加者は1校区あたり 20 名程度です。民生委員・児童委員や区・町内会、福祉団体など活動主体者を中心に参加いただきます。

3 全2回のフレームワーク

第1回

- 「地域福祉」や「小地域福祉活動」の必要性のレクチャー
- 各中学校区ごとの魅力と課題の抽出
※困りごとを抱えている人はどのような人か？を具体的に考える



第2回

- 課題ごとの解決策のアイデア出し
- 地域力で課題を解決するストーリーを考える

4 ワークショップのプログラム内容

「地域福祉＝しあわせづくり」 地域の力で、そこに住む誰かのしあわせを叶える ストーリーを考えます。

地域には様々な困りごとを抱えている人がいます。

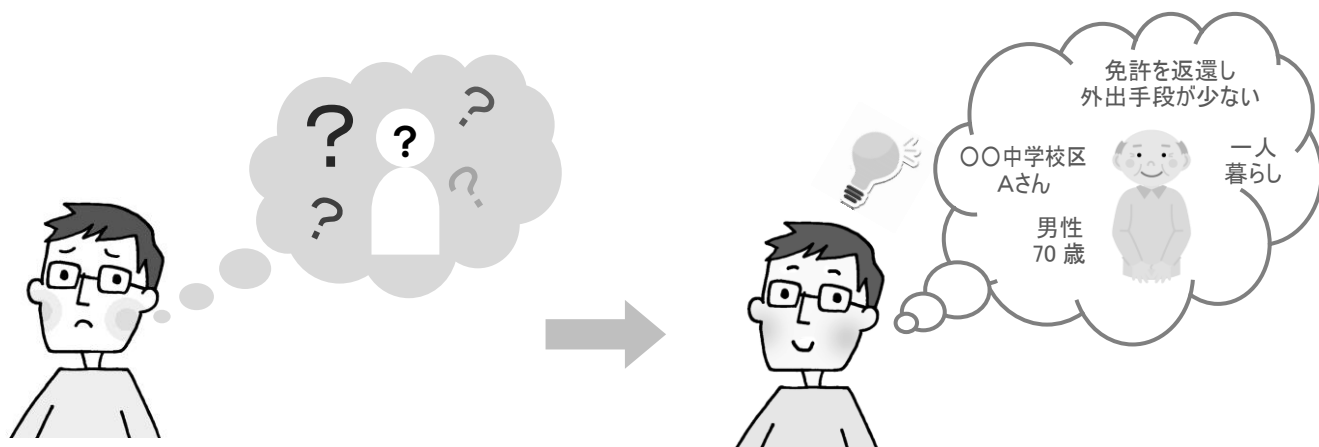
今回の地域福祉懇談会では、全2回の工程で、「地域にどのような困りごとを抱えている人がいるのか」「どうしたらそれを地域の力で解決できるのか」を考えていきたいと思っています。

しかし、「一人暮らしの高齢者が多いよね」「みんなで見守りをしていけばいいんじゃないのかな…」と漠然と話していても、なかなか具体的に何をすればいいのかピンと来ない人が多いかもしれません。

そこで、「一人暮らしの高齢者」という言葉を、「古知野中学校区に住む一人暮らしのAさん」と置き換えたらどうでしょうか。さらにそのAさんが抱える背景（男性なのか女性なのか、男性の場合家事が苦手なのは？古知野にはサロンもあるのに、なぜAさんは参加できないのか？etc…）を考えてみると、Aさんが望んでいることは何なのか、そのために地域で何をしていけばいいのか、考えやすくなりませんか。

今回の地域福祉懇談会では、中学校区ごとに困りごとを抱える代表的な人＝登場人物を設定し、その人の「しあわせ」を地域の力で叶えていくストーリーを考えていただきます。

みんなで作りあげた「〇〇中学校区の地域福祉ストーリー」で、地域福祉をより身近に感じてもらえたり、地域の人が地域福祉に取り組むきっかけになったりすることが目標です。



5 地域福祉懇談会の計画への反映イメージ

「地域福祉計画・地域福祉活動計画」では、市全体の計画とあわせて、地区計画も作成します。

地区計画には、地区ごとの統計データ等の他に、今回の懇談会で出た意見から、現状・課題の抽出を行うとともに、地区ごとの今後の方向性を掲載していきます。

■地区計画への反映イメージ

古知野 中学校区

古知野中学校区の特徴

総人口 ○○○人 	世帯 ○○○世帯
高齢化率 ○○% 	年少人口率 ○○%

古知野中学校区には区・町内会が●●組織されており、●●小学校区、●●小学校区の一部から構成されています。市内には●●所のサロンがあり、……という特徴があります。

古知野の魅力

市民懇談会の意見

○○○○○	×××××	△△△△△	
○○○○○	×××××	△△△△△	
○○○○○	×××××	△△△△△	

古知野中学校区の地域福祉ストーリー

市民懇談会では、「古知野地区ではどういった困りごとを抱えている人がいるか」をテーマに話し合いました。
話し合いの結果、次の3人の登場人物を設定し、その人たちの幸せのために、「古知野の地域力」で何ができるかを話し合いました。

一人暮らしの高齢者
○○歳 男性

体の調子がよくなく、頻繁な外出が難しい。
自分で料理をつくることもできなかったため、低栄養状態。
人と話す機会が減ってきている。

- 栄養のある料理を、地域で食べる機会をつくります。
- 見守り隊の活動により、高齢者の安否確認、交流を行います。
- 身近な地域で通えるサロンを開設し、地域の居場所づくりを進めます。

ボランティアがしたい人
○○歳 男性

○○○○○○○

- 〜〜します。
- 〜〜します。
- 〜〜します。

転入したきた人
○○歳 女性

×××××××××

- ==します。
- ==します。
- ==します。

第1回で出す魅力・好事例を反映。

第1回～2回で考える人物設定・ストーリーを反映。

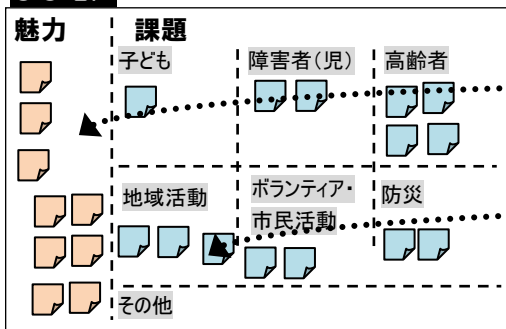
6 本日のスケジュール

時間配分	内容
あいさつ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・地域福祉懇談会の目的等の確認
地域福祉の レクチャー (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本福祉大学柏原氏より、地域福祉についてのレクチャーを実施
オリエンテーション (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回ワークショップのテーマ及び実施方法についての説明
部屋への移動 (2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区ごとに部屋を移動
グループワーク (60分)	<ul style="list-style-type: none"> ○模造紙とふせんを使ったKJ法によるグループワーク ○テーマに沿って意見交換をする ①地区の魅力・課題出し (40分) ②同じような課題のグルーピング (10分) ③優先課題の選定 (10分) <p>※詳細は次ページ</p>
発表 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ4分～5分でグループワーク結果の発表を行う
部屋への移動 (2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の部屋に集合する
講評・あいさつ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・講評 ・終わりのあいさつ、次回の案内

①地区の魅力・課題出し（40分）

各中学校区の地域福祉に関する課題や、地区の助け合い・支え合いに関する魅力的な取り組みについて意見を出し合います。

〇〇地区（模造紙イメージ）



魅力(例)

老人クラブが自主的な取り組みをはじめている

課題(例)

転入世帯は地域にうまく溶け込めず、地域活動にも参加していない

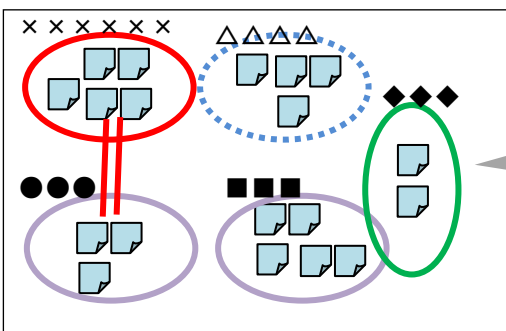
（ふせんイメージ）

※発想のきっかけとして、「子ども」「障害者(児)」「高齢者」「地域活動」「ボランティア・市民活動」「防災」「その他」の分類を設ける。

②同じような課題をグルーピングする。（10分）

同じような課題をまとめ、ペンで囲み、タイトルをつけます。

予め分類してある模造紙ではグルーピングがしづらい場合は、白紙の模造紙を用意しているため、そちらを使うことも可能です。



グルーピングのタイトルは、「障害に対する理解の不足」「区・町内会への加入率の減少」といったように、ある程度まとまった形でつけてください。

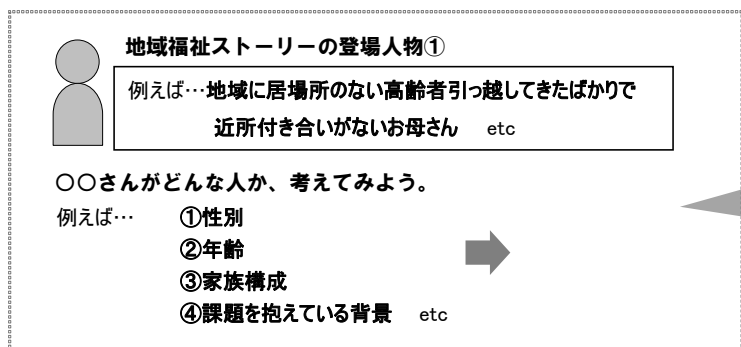
③優先課題の選定（10分）

グルーピングした課題のうち、今後6年間（地域福祉計画・地域福祉活動計画の計画期間）で“優先的に取り組んでいくべきもの”を考えてもらいます。

この際に大切となるのが、「地域でどう解決していけるか」という視点です。

例えば「電車の停車駅が少ない」という課題が出たとします。民間鉄道会社に停車駅を増やしてもらうこと、市のコミュニティバスのルートを再考してもらうこと、というの必要なことかもしれませんが、それを地域の課題として置き換えると、例えば「交通の利便性が悪いことにより、買い物難民が出ている」と考えることができます。なるべく、地域起点で課題を考えていただくことが大切です。

時間があれば、ここで「選定した優先課題を抱えている代表的な人物＝ストーリーの登場人物」を考えてみましょう。性別、年齢、家族構成など詳細設定を話し合うことで、その地区の課題の輪郭をより明確にすることができます。



1 中学校区につき登場人物は3～4人くらいをイメージしています。他のグループと重複したときに備えて、2人くらい出しておくともよいです。

7 ワークショップの方法（KJ法）

「KJ法」は、ふせんを使って行う検討の方法です。具体的な進め方は次のようになります。（※KJ法…この手法を考案した文化人類学者、川喜田二郎氏のアルファベットからこの名前がついています。）

① 1人ひとり、意見カードを作成する。

- ①「ふせん」（自由に貼ったり、はがしたりすることができるメモ用紙）を1人10枚程度配布します。
- ②テーマに沿った内容を、1つのふせんに1つ、記入していきます。（同じふせんに2つの意見を書くと、あとで意見の分類ができなくなるので注意してください。）

ふせんに記載されたことだけが記録されます！



② 自分の意見カードを読み上げながら発表する。

- ③ふせんに意見を書き終わったら、一人ひとり書いた意見を発表しながら、模造紙にふせんを貼っていきます。その際、なぜそう思ったか、その背景についても述べて下さい。
- ④他の人の意見を聞いて、ひらめいたことがあれば、再度ふせんに意見を書いて追加して下さい。

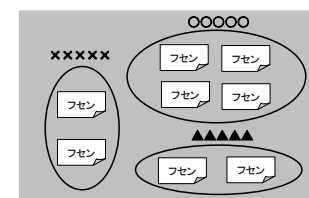
必ず全員が発言してください！



③ 意見をグループ化する。

- ⑤意見が出たら、今度は似たような意見のふせんを整理・分類していきます。
- ⑥ある程度ふせんが整理・分類できたら、個々のグループの内容がわかるように、タイトルをつけて下さい。
- ⑦可能であれば、グループ化された内容の相関関係も書いてください。

イラストなどをつけてもOK！



④ グループ全体の意見まとめを発表する。



8 ワークショップのルール

- ① 全員が発言できるようにします。発言が長時間にならないよう、話は簡潔にまとめ、他の人の意見も十分に聞けるようにしてください。
- ② 1つのふせんに1つの意見を簡潔にご記入ください。また、ふせんに記載されたことだけが議事録に記録されます。発言したいことは必ずふせんに記入して模造紙の上に貼ってください。
- ③ ふせんが模造紙の上に貼られ、ある程度意見が出そろった段階で、どなたかがマジックで課題などの整理をお願いします。
*簡単な言葉で、きれいじゃなくても結構です。
- ④ 異なった意見は特に重要ですので、いろいろな視点や立場から討議を深め、発表の時にどのようなことが議論になったか、説明をお願いします。

<参考> ワークショップ5カ条

- (1) ワークショップでの検討の目的（趣旨）について意見を交換する。
- (2) 人の話をよく聞き、楽しく議論する。
- (3) 縄張り意識や肩書、立場からではなく、自分の考えを話す。
- (4) 非難や愚痴、文句でなく、建設的な意見を交換する。
- (5) 思い込みや強がりではなく、最後まであきらめず自分の考えを理解してもらう。

参考資料 開催予定表

開催日時	開催場所	実施校区
1月22日(日) 10:00~12:00	江南市役所(全体会) 3階 第2委員会室	全体説明 校区ごとに部屋に分かれて グループワーク※
1月31日(火) 19:00~21:00	古知野西公民館 1階 会議室	西部中学校区
2月 2日(木) 19:00~21:00	中央コミュニティセンター 2階 会議室	古知野中学校区
2月 7日(火) 19:00~21:00	宮田地区学習等供用施設 2階 集会室	宮田中学校区
2月 9日(木) 19:00~21:00	布袋ふれあい会館 2階 第2~第3会議室	布袋中学校区
2月14日(火) 19:00~21:00	古知野北部地区学習等供用施設 2階 大集会室	北部中学校区

※1月22日(日) 校區別会場

西部中学校区：第2委員会室

古知野中学校区：第3委員会室

宮田中学校区：仮眠待機室

布袋中学校区：救護室

北部中学校区：第4委員会室